様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第１面）

産業廃棄物処理計画書

令和8年4月6日

群馬県知事　殿

提出者　〒103-8650
住　所　東京都中央区日本橋人形町2丁目31番11号
氏　名　日清紡ブレーキ株式会社
代表取締役社長　服部恭輝

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号　03-6897-8900

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第９項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	日清紡ブレーキ株式会社館林事業所
事業場の所在地	群馬県邑楽郡邑楽町大字赤堀１５０３
計画期間	令和７年４月１日から令和８年３月３１日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

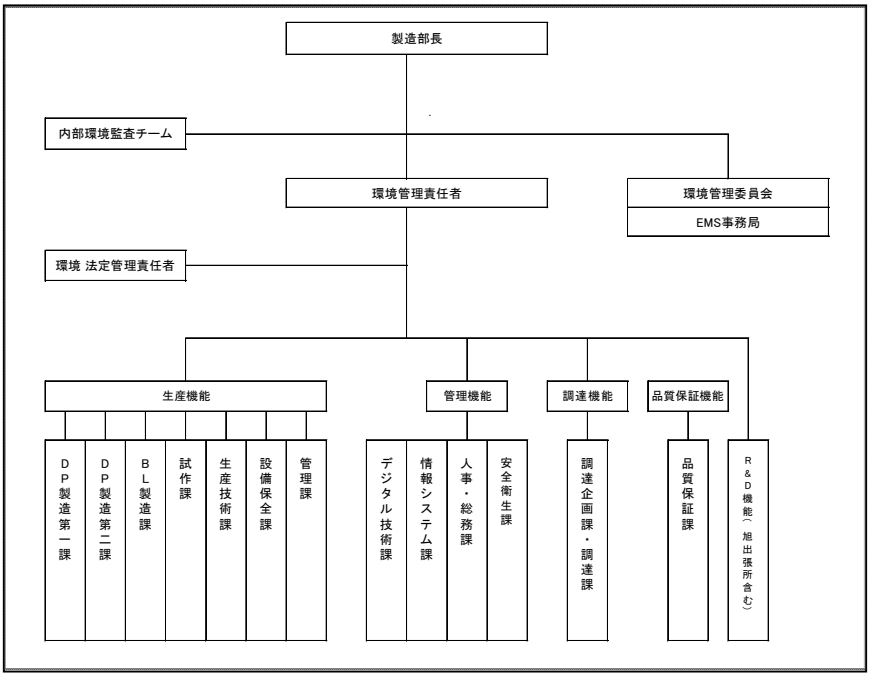
①事業の種類	大分類：製造業　　中分類：輸送用機械器具製造業
②事業の規模	売上高　（20,382 百万円）
③従業員数	５８２人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	図1「廃棄物処理フロー図」参照

（日本工業規格　Ａ列４番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

（管理体制図）

産業廃棄物管理部署:
設備保全課
人事･総務課



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度（令和7年度）実績】

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	汚泥
排　　出　　量	1185.7　t	1315.0　t

（これまでに実施した取組）
・工程内不良の低減
・分別の徹底
・圧縮梱包機による梱包資材減量化、カタログ類の返却
・粉体塗装化による塗装ライン排水の削減

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	汚泥
排　　出　　量	1173.9　t	1301.9　t

（今後実施する予定の取組）
・工程内不良の低減
・分別の徹底
・木製パレットから樹脂製パレットへの置き換えによる木くず削減

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
・研磨粉から有効金属粉を回収しリサイクル化
・紙くずの分別リサイクル（古紙へ再利用可能な紙くずの分別）
・廃棄ブレーキパッドのプレートを剥離し金属リサイクル化

②計画

（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
・研磨粉から有効金属粉を回収しリサイクル化
・紙くずの分別リサイクル（古紙へ再利用可能な紙くずの分別）
・廃棄ブレーキパッドのプレートを剥離し金属リサイクル化

金属くず	廃油	木くず	廃アルカリ
6.0　t	43.8　t	68.1　t	3.7　t

金属くず	廃油	木くず	廃アルカリ
5.9　t	43.4　t	67.4　t	3.6　t

廃酸			
2.5 t	t	t	t

廃酸			
2.5 t	t	t	t

<table>
<tr><td colspan="4">自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="4">①現状</td><td colspan="3">【前年度（令和7年度）実績】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>廃プラスチック類</td><td></td></tr>
<tr><td>自ら再生利用を行った産業廃棄物の量</td><td>73　t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）
・廃棄品を粉砕し、原料として再利用</td></tr>
<tr><td rowspan="4">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>廃プラスチック類</td><td></td></tr>
<tr><td>自ら再生利用を行う産業廃棄物の量</td><td>72.2　t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）
・廃棄品を粉砕し、原料として再利用する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="5">①現状</td><td colspan="3">【前年度（令和7年度）実績】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>汚泥</td><td></td></tr>
<tr><td>自ら熱回収を行った産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量</td><td>1262.4　t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）
・排水処理汚泥を脱水機にて減量し排出
・脱水機の凝集剤注入量適正化による脱水効率
・送風機による汚泥コンテナー内汚泥乾燥による減量</td></tr>
<tr><td rowspan="5">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>汚泥</td><td></td></tr>
<tr><td>自ら熱回収を行った産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量</td><td>1249.8　t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）
・排水処理汚泥を脱水機にて減量し排出
・脱水機の凝集剤注入量適正化による脱水効率
・送風機による汚泥コンテナー内汚泥乾燥による減量</td></tr>
</table>

t	t	t	t

t	t	t	t

t	t	t	t
t	t	t	t

t	t	t	t
t	t	t	t

t	t	t	t

t	t	t	t

t	t	t	t
t	t	t	t

t	t	t	t
t	t	t	t

<table>
<tr><td colspan="4">自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="4">①現状</td><td colspan="3">【前年度（　　年度）実績】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）</td></tr>
<tr><td colspan="4">産業廃棄物の処理の委託に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="8">①現状</td><td colspan="3">【前年度（令和7年度）実績】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td>廃プラスチック類</td><td>汚泥</td></tr>
<tr><td>全処理委託量</td><td>1,112.8 t</td><td>52.6 t</td></tr>
<tr><td>優良認定処理業者への処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>再生利用業者への処理委託量</td><td>1,033.2 t</td><td>52.6 t</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者への処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量</td><td>79.6 t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）</td></tr>
</table>

t	t	t	t

t	t	t	t

金属くず	廃油	木くず	廃アルカリ
6.0 t	43.8 t	68.1 t	3.7 t
t	t	t	t
6.0 t	43.8 t	68.1 t	3.7 t
t	t	t	t
t	t	t	t

t	t	t	t

t	t	t	t

廃酸			
2.5 t	t	t	t
t	t	t	t
2.5 t	t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t

	②計画	【目標】

産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	汚泥
全処理委託量	1,101.7 t	52.0 t
優良認定処理業者への処理委託量	t	t
再生利用業者への処理委託量	1,022.9 t	52.0 t
認定熱回収業者への処理委託量	t	t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	78.8 t	t

（今後実施する予定の取組）

※事務処理欄	

金属くず	廃油	木くず	廃アルカリ
5.9　t	43.4　t	67.4　t	3.6　t
t	t	t	t
5.9　t	43.4　t	67.4　t	3.6　t
t	t	t	t
t	t	t	t

廃酸			
2.5 t	t	t	t
t	t	t	t
2.5 t	t	t	t
t	t	t	t
t	t	t	t

備考

1　前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。

2　当該年度の6月30日までに提出すること。

3　「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

4　「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

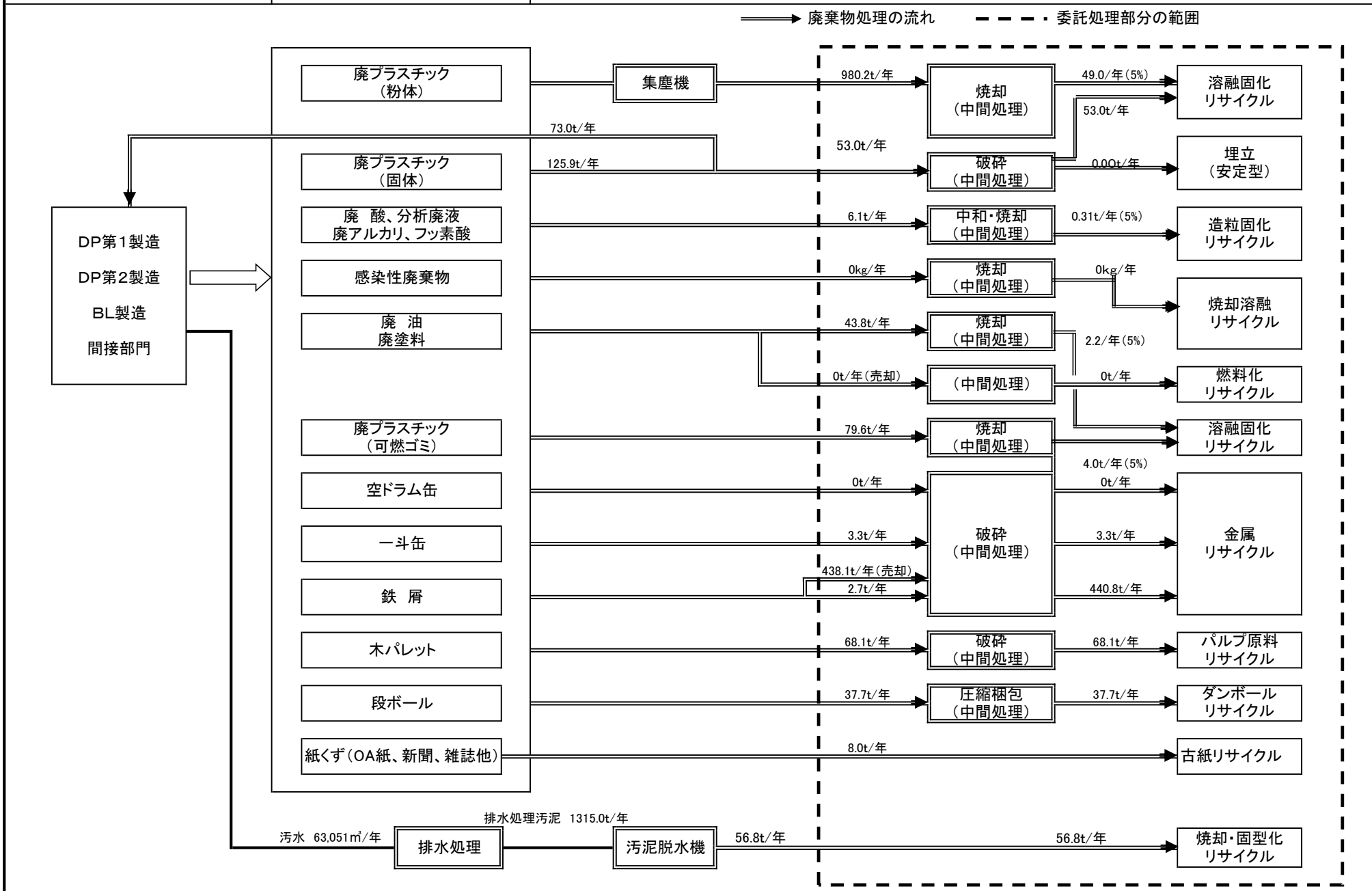
5　「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

6　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

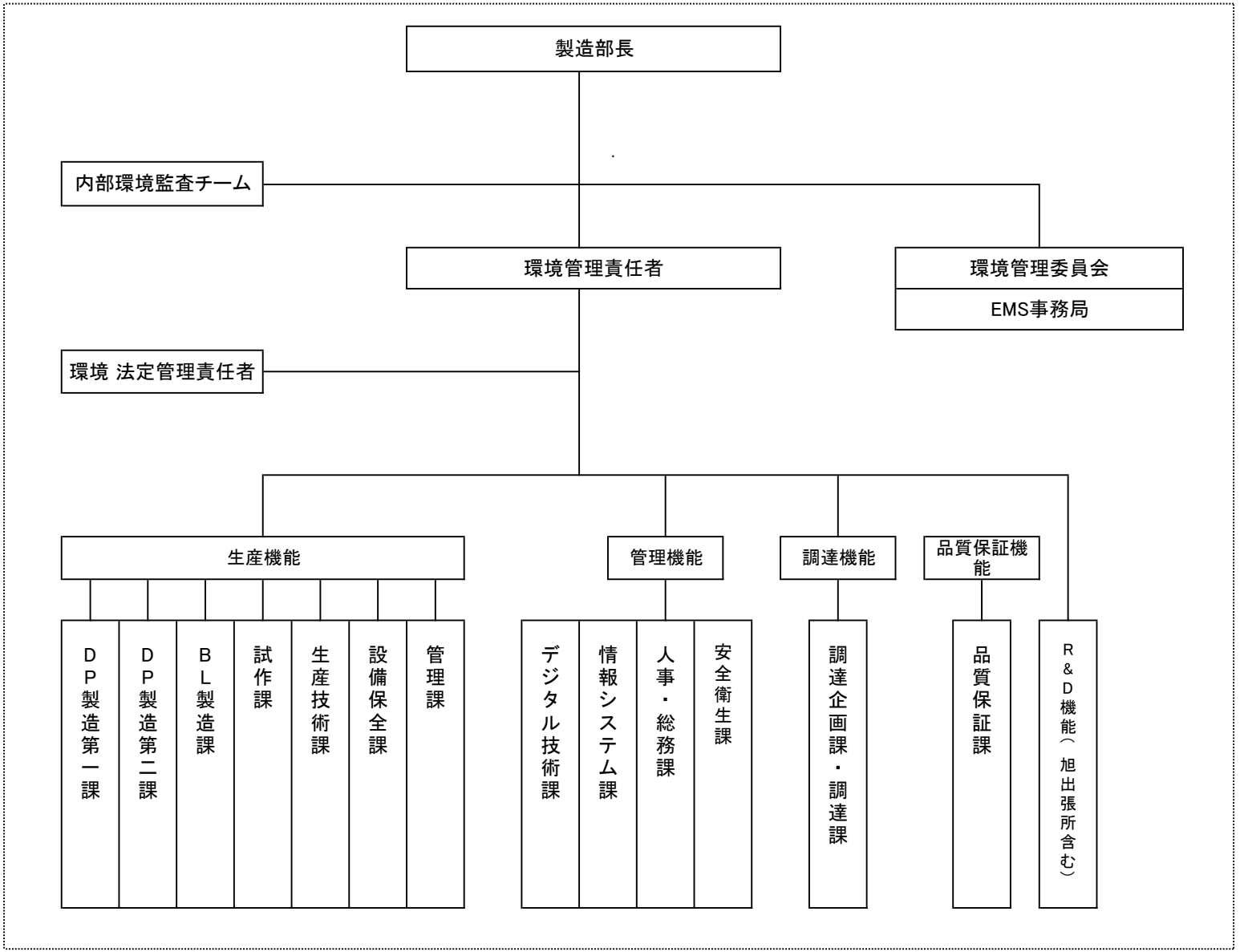
7　※欄は記入しないこと。

図1　廃棄物処理フロー図（25年度実績）

2026.04.09



環境管理組織図


製造部長
内部環境監査チーム
環境管理責任者
環境管理委員会
EMS事務局
環境 法定管理責任者
生産機能
管理機能
調達機能
品質保証機能
DP製造第一課
DP製造第二課
BL製造課
試作課
生産技術課
設備保全課
管理課
デジタル技術課
情報システム課
人事・総務課
安全衛生課
調達企画課・調達課
品質保証課
R&D機能（旭出張所含む）

別紙 3

2025年度廃棄物発生量実績及び2026年度目標

2026年4月6日

【2025度廃棄物発生量実績 】　※ ▭ 再生利用される廃棄物

日清紡ブレーキ㈱ 館林事業所

廃棄物の種類 / 発生量(t)	廃プラスチック（固形品）	廃プラスチック（可燃ゴミ）	廃プラスチック（未成型品）	汚泥（排水処理汚泥）	金属くず（鉄屑）	金属くず（一斗缶）	廃油	木くず	廃アルカリ	廃酸、フッ素酸	計
①産業廃棄物 発生量	125.9	79.6	980.2	1,315.0	2.7	3.3	43.8	68.1	3.7	2.5	2,624.8
②自己直接 再生利用量	73.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73.0
③自己直接埋立 処分又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
④自己中間処理量	0	0	0	1,315.0	0	0	0	0	0	0	1,315.0
⑤自ら熱回収を行った量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
⑥自己中間処理 残さ量	0	0	0	52.6	0	0	0	0	0	0	52.6
⑦自己中間処理により 減量した量	0	0	0	1,262.4	0	0	0	0	0	0	1,262.4
⑧自己中間処理後 再生利用量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
⑨自己中間処理後自己 埋立処分又は海洋投入量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
⑩直接委託及び自己 処理後委託処分量	53.0	79.6	980.2	52.6	2.7	3.3	43.8	68.1	3.7	2.5	1,289.4
⑪優良認定処理業者 への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
⑫再生利用業者への処理 委託量	53.0	0	980.2	52.6	2.7	3.3	43.8	68.1	3.7	2.5	1,209.8
⑬熱回収認定業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
⑭熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	79.6	0	0	0	0	0	0	0	0	79.6

【2026年度廃棄物発生量目標 】

廃棄物の種類 / 発生量(t)	廃プラスチック（固形品）	廃プラスチック（可燃ゴミ）	廃プラスチック（未成型品）	汚泥（排水処理汚泥）	金属くず（鉄屑）	金属くず（一斗缶）	廃油	木くず	廃アルカリ	廃酸、フッ素酸	計
①産業廃棄物 発生量	124.6	78.8	970.4	1,301.9	2.7	3.2	43.4	67.4	3.6	2.5	2,598.5
②自己直接 再生利用量	72.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	72.2
③自己直接埋立 処分又は海洋投入量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
④自己中間処理量	0.0	0.0	0.0	1,301.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,302
⑤自ら熱回収を行った量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
⑥自己中間処理 残さ量	0.0	0.0	0.0	52.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	52
⑦自己中間処理により 減量した量	0.0	0.0	0.0	1,249.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,249.8
⑧自己中間処理後 再生利用量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
⑨自己中間処理後自己 埋立処分又は海洋投入量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
⑩直接委託及び自己 処理後委託処分量	52.4	78.8	970.4	52.0	2.7	3.2	43.4	67.4	3.6	2.5	1,276.5
⑪優良認定処理業者 への処理委託量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
⑫再利用業者への処理 委託量	52.4	0.0	970.4	52.0	2.7	3.2	43.4	67.4	3.6	2.5	1,197.7
⑬熱回収認定業者への 処理委託量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
⑭熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0	78.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	78.8